

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1690100225		
法人名	社会福祉法人相幸福社会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	富山市 飯野 1-1		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果市町村受理日	平成28年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会
所在地	富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階
訪問調査日	平成28年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス、特別養護老人ホームなどが併設しており、各々の相互連携を図ったケアを行っている。利用者と職員および職員間の関係は極めて良好。「潤いのある家庭的なホーム」を目指し取り組んでいる。地元の人たちに施設の一角を「地域交流室」として解放するなど地域の交流に努めている。又、育児休業制度や資格取得による正社員登用制度等を整備し職員が向上心をもって働ける職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道寄りの静かな街中に位置しており、同敷地内に種類の異なった介護事業所が併設されている。落ち着いた雰囲気の中、利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、アセスメントを行い、本人の能力や思いに合わせた支援が職員で共有され一貫されている。理念「より健康でうるおいの実感できる暮らし」を根幹に、利用者が心豊かな生活が送れるよう努めている。食事において、昼食に卓上コンロで鍋焼きうどんを提供したり、利用者からリクエストを頂き職員と作ったおやつを、共に談笑しながら食したりなど楽しい雰囲気作りを大切にしている。また、食事作り、配膳など、したいことを手伝ってもらったり、事業所の創立記念日に職員と「いなり寿司」を作るなど、本人のできる能力を活かし、暮らしの充実を図る取り組みに努めている。事業所は、職員意見を聞く機会を多く設け、それらを運営や職場環境改善に反映させている。仕事と子育てが両立できるなど、働きやすい職場風土が築かれており、働く意欲向上につながり職員定着率も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「より健康でうおいしいの実感できる暮らしを」基本理念を玄関に掲示し、毎月末に職員カンファレンス・ミーティング等において、日々のサービスに反映し、理念に基づいたケアを行っているか、確認している。	事業所理念を玄関と職員休憩室に提示して、職員が常に意識できるように努めている。また、毎月のミーティング時には理念を唱和し、新人研修では理念を説明する時間を設けているなど、職員間の理念の共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいき健康の集いに参加したり校下の小学校の総合学習や行事等中学校の14歳の挑戦を受け入れ、地域との交流や関わりを行なっている。	近隣の小学校5学年が授業の一環として事業所を訪れ、生徒たちの考案した手遊びを通して利用者と交流したり、地域住民の方に事業所内にある地域交流室を開放して、利用者と共にカラオケを楽しんでもらうなど、地域の方々との交流の機会を多く持つよう心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、民生委員等の研修の場を提供したり、運営推進会議を開催することにより、地域の方々の理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者家族の代表、地区社会福祉協議会会長、長寿会会長、在宅支援専門員、地域包括センターの職員等が参加して、2か月に1回開催し、利用者状況や外部評価等について報告している。また、地区センターなどで、開催される活動に、利用者さんが参加したい意向を伝え、地域交流に参加した。	2か月に1回開催している運営推進会議には、当事業所利用者の家族並びに同敷地内にあるデイサービス、小規模多機能型居宅介護の利用者の家族も代表で参加しており、その場で出た意見や要望は、迅速に対応してサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会への参加、他のグループホームに相談するなど、取り組みとともに、長寿介護保険課にわからないことは質問するようにしている。	市町村担当者とは、サービス提供上で行き詰ったりなど質問がある時に、相談、助言をしてもらうなど、日ごろから協力体制が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等行動制限についての取り扱い要項」はスタッフルームにあり、いつでも職員が確認できるようになっている。また、職員カンファレンスの都度、職員全体で確認している。「飯野タウンなごみ」は、小規模多機能型居宅介護、小規模特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、認知症対応型デイサービスセンター、ショートステイの機能を併設しており、利用者は自由に行き来できるようにしている。	事業所内で、「身体拘束廃止委員会」を設置し、身体拘束廃止に関する勉強会を年間研修計画の中に組み入れ実施している。玄関やエレベーターの施錠を行わない、言葉による行動制限をしないなど、職員全員が身体拘束を理解し意識しながら身体拘束廃止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、常に職員間で声の掛け合いを心がけ、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	掲示し、相談があれば関係機関に、紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、ご家族に対し、管理者やケアマネージャーが十分に説明することで納得して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回市の相談員を受け入れ、家族の面会や行事の際、家族と交流をもち、気軽に意見等を言っていたりするような雰囲気作りを心掛け職員全員でとくんでいる。	管理者は、家族の面会時に利用者の日頃の細やかな様子を話すようにしており、その際に家族からの意見や要望を聞き取っている。聞き取った内容は連絡帳に記入し、職員全員で共有して運営やサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ささいな事でも、相談し易い雰囲気を作り、職員の意見を受け止め、より良い運営推進に努めている。	毎月のカンファレンス時に、管理者は職員から意見要望を聞き取り、家庭事情などの要望にも応えられるよう配慮している。また、法人の理事長との面談が年2回あり、そこで出された意見が施設長に還元され、施設長が職員の思いを把握することで、声掛けしたり相談しやすい雰囲気作りを意識するなど配慮し、風通しのよい職場となって職員の定着率につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長、施設長、管理者の意見交換を頻回に行うことで、職員の意見を早期に反映し働き甲斐のある職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じた施設内研修や外部研修に積極的に参加してもらい、時間をかけて安全で安心できる看護、介護の勉強を継続している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者はもとより家族の方々との信頼関係が1番と考え、お互いに納得できるまで話し合い、信頼関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に協力してもらいアセスメントを仕上げることで、家族が考えていることや利用者本人の日頃の様子を知ることができ初期の段階から信頼関係を築けるのではないかと考えて業務にあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接に伺い、今必要としているサービスや支援を関係者と話し合うことで、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	単なる施設職員としてだけでなく、時には子供であり、孫であり、職員であり優しく時には厳しく、心のこもった介護に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に気軽に施設に来てもらい、職員と一緒に利用者さんのお世話をしたり、話し相手になったりしながら施設での様子を感じて頂き共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に外出したり外食や職員との外出時に慣れ親しんだ地域を訪れている。各居室には家族の写真等、馴染みの物を入れていただいたり、なかなか面会にこられない家族には、定期的に管理者が連絡をしている。	自宅が気になるという利用者に職員が付き添い、用事を済ませたり、家族の協力を得てお盆の墓参りに出かけたりしている。また、利用者の友人が事業所に訪ねてきたときは、ゆったりと会話を楽しめるよう配慮するなど、本人が大切にしてきた馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、職員が家族のような関係を構築しリラックスできる雰囲気作りとまとまりとした雰囲気作りの中で利用者同士が係わり合い、支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人、家族に頼られる事業所や職員でありたいと努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの入居者様とコミュニケーションを大切にし、個々の思い等を引き出したり困難な場合は、カンファレンスや日々の話し合いで検討している。	日頃の会話や関わりの中で気づいた、利用者一人一人の思いや意向を介護記録に記入し、センター方式のアセスメントシートを活用して、本人の暮らし方の希望の把握に努めている。それらは職員全員で共有し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に伺い、本人、家族等からこれまでの暮らしを丁寧に聞かせてもらい、理解することでこれからのサービスを検討するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で状況を把握し、できるところは自分でしてもらえ介護を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを開き本人の現状を把握しニーズを見つけて、計画の作成見直しを行っている。変化のある時は家族や、職員同士が、意見交換し現状に即した介護計画を、作成している。	定期的なカンファレンスにて、利用者一人一人の課題の検討や本人の要望を把握し、それらを介護計画に反映させている。介護計画に変更や追加内容があった場合は、該当項目に印をつけ職員、家族に分かりやすいよう工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いた時、気が付いた人が日々の様子を記録し、カンファレンスにおいて情報を共有しケアプランに反映しつつ実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数の利便性と他の事業所の協力を得ることにより、その時々ニーズに柔軟かつ迅速にサービスを行うことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小学校の元気な児童の定期的な訪問や地域のボランティアの訪問の受入れを行うことにより刺激のある日常生活を楽しく過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医師がかかりつけ医である。受診は原則家族であるが、付添いできない時には臨機応変に職員が付き添う。受診時現在の状況を書面で情報提供している。	ほとんどの利用者が、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時には、本人の状況を書面にして家族に渡し、適切な医療が受けられるように支援している。家族同行の受診を基本としているが、場合によっては職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一番身近でお世話をしている介護職員が他職種や上司にとらえた情報や気づきを伝え行動する事で、疾病等の早期発見や早期治療につながればとの思いで業務にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、本人、家族の考えに基づき、主治医の指示に従い行動できる関係づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、希望があれば、十分話し合い看取り介護を行う体制は、整っているが、現在までの実施者はいない。	入所の契約時に重度化（看取り）指針に基づき、本人、家族に説明をし同意を得ている。利用者の状態が変化した場合は、その都度、利用者本人や家族の意向を尊重するように十分に話し合いを行っており、終末期に向けた受け入れ体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを各フロアに設置し、職員同士声掛けをおこないながら、どのような緊急時にも対応できるよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施されている施設内の合同避難訓練は、地域の消防署との連携の下、実施されている。また、防災の日に合わせて訓練も行っている。	火災訓練は、年に2回、同敷地内の他の事業所との合同避難訓練として消防署の協力を得て実施している。9月1日の防災の日には、地震を想定して一斉に腰を低くしたり、頭を守る訓練を実施した。また、災害に備えた飲料水や食料などの備蓄品が準備されている。	火災時の避難訓練は、定期的に実施されているので、今後は水害や地震などの自然災害も想定して、利用者が避難できる方法を訓練するとともに地域とのつながりも大切にして、協力体制を築いていかれることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護マニュアル」が作成されている。特に、入浴・排泄場面での対応については詳細に定めている。日々の申し送り時やカンファレンスでは個々のケアについてプライバシーに配慮することの重要性を話し合っている。	事業所内にある「プライバシー保護マニュアル」に従い、トイレ誘導時には、他の利用者に気づかれることのないよう耳元で声をかけてさりげなく誘うなど、利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活上、職員と利用者1対1での係わりを多くもつことで利用者自身の考えや希望を職員に伝えやすくし、職員が希望に沿えるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	施設として1日の流れやマニュアルはあるが、毎日の生活の中でその日、その時を大切にしたいとの思いで、一人ひとりの希望を尊重した支援を行うことを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時、外出時等に職員と一緒に着る物を選び、身だしなみを整え、おしゃれを楽しんでいただく支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は施設の厨房で調理されているが、ご飯、味噌汁やおやつ等はグループホーム内のキッチンで調理している。職員と一緒に食事の準備を行い会話を楽しみ一緒に食事後片づけを行うことで役割を感じてもらえる様支援している。	利用者一人ひとりの能力に合わせて、材料を切ったり、食事の盛り付け、下膳の手伝いなど、やりたいことを手伝ってもらっている。利用者の希望を伺い、その日食べたいおやつを職員と一緒に手作りし、職員も同じテーブルについて楽しい雰囲気の中で食事を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1300mlを目標に水分補給を行い、栄養士によるバランスの取れた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し、個人のレベルに応じた介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をいかし、個々の排泄パターンを把握して個別に排泄援助に努めることで、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの排泄を支援している。また、排便を促すために水や牛乳を飲んだり、事業所の建物の周囲を散歩するなど排泄の自立に向けた工夫が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者に合わせた水分補給や栄養士による繊維質の多い食べ物が摂取できるような献立作り、簡単な運動等を職員が個々に合わせたメニューで取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前と午後の時間帯を設けて希望の時間帯に入浴をしてもらっている。本人のペースでの入浴をしてもらっている。	入浴は、職員が一方向的に決めるのではなく、利用者本人の希望を尊重して、入浴日や時間を調整して一人ひとりの生活習慣を大切にしている。また、入浴拒否があった場合は、無理をせず翌日に声を掛けてみるなど、本人の思いを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室でゆっくり休んでいただいたり、フロアーのソファや畳部屋、こたつ等でウトウトしたりしている利用者に対して毛布を掛けてゆっくり休んでもらうような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテを職員がいつも記録できる所に置き、記入したり確認したりするほか、ノートに利用者の状態の変化や対応方法、服薬等を記録し、出社時に必ず読む事を職員の習慣にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	映画鑑賞や飲酒、お料理等個人に合わせ、時には、職員が1対1の対応をすることにより一人ひとりの楽しみや、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日の散歩、ドライブ等にお誘いして、生活に潤いを持ってもらっている。個々の趣味に応じて外出援助を行っている。	年度初めに「年間行事予定表」を作成し、その予定表に基づいて、桜、梨の花、芍薬の花見などの外出支援を行っている。また、その他に、その日に利用者の要望があれば、ドライブに出かけたり、散歩したりと日頃から外出の機会を多く持てるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には自己管理を勧めている。職員と買い物に行った時希望の品物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に好きな方に電話を掛けられるようにしている。事務所に便箋や封筒、切手を準備しており、希望により職員の付き添いで郵便物を入れに行ったり、事務所で入れてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物やレクリエーションの写真を掲示、家庭的な雰囲気作り、居心地の良い空間作りに努めている。	居間や食堂廊下は、整理整頓されており、清掃も行き届いて清潔感がある。利用者が自分の家だと意識できるよう、事業所内は華美な装飾や飾りを避け家庭的な雰囲気の空間作りを心掛けながらも、食堂のテーブルごとに生花を飾り季節感をさりげなく演出するなど細やかな配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋の掘りごたつでくつろいだり、フロアーのソファで他者と語ったりできる空間があり、それぞれ思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に写真や家具等、馴染みのあるものを居室に入れていただくよう家族に話して一緒に居室作りをしている。	家族の協力のもと、利用者本人が使い慣れた家具や長年手を合わせてきた仏壇などを居室に持ち込んでいただき、本人にとって安心して過ごせる居心地のよい空間となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のレベルに応じた居室の位置を考慮し、日常生活をできるだけ自分で行なってもらえるよう、自分でできること、したいことをしてもらえよう職員が見守り、援助をしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームなごみ

作成日:平成28年10月26日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	13	火災時の避難訓練は、定期的実施されているので、今後は水害や地震などの自然災害も想定して、利用者が避難できる方法を訓練するとともに地域とのつながりも大切にして、協力体制を築いていかれることを期待したい。	水害地震時の、合同避難訓練を地域住民と協力体制を整える。	地域の各種団体の会議に、参加させて頂き施設と地域住民の協力体制を整える。	1年間
2					
3					
4					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。